

令和6年度 東広島市教育委員会主催・広島大学マスタース共催市民講座
「国際語としての英語 ～ 異文化コミュニケーションの落とし穴 ～」

広島大学マスタース会員 谷本 秀康

本講座は、講師の都合で4回ではなく3回の実施となりました。

(1) 2024年8月10日(土)

先ず「コミュニケーション」と「言語」とは何か？を語源からそれぞれ解説。

さらに「言葉(記号)」と「意味」との関係を意味論に言及しながら、

1. 辞書的意味 2. 構造(文法)的意味 3. 社会的・文化的意味

の視点から説明し、異文化コミュニケーションの際にどのような誤解が起こる可能性があるかについて「語」レベルで多くの例を挙げて解説。その後、質疑応答の時間をもうけた。

(2) 2024年8月24日(土)

前回の講義をベースに、D.C. バーンランドの「対人間方程式」に言及し、

1. 知覚定位 2. 所信体系 3. 意思疎通形式について説明し、それらの相違が誤解につながる原因を詳細に分析。言葉の意味のニュアンスが文化によって微妙に異なる実例を「文」レベルに拡大して語用論の観点から「誤解」の原因を解明。その後、質疑応答の時間をもうけた。

(3) 2024年8月31日(土)

前回の講義をベースに、文化による「知覚定位」、「所信体系」、「意思疎通形式」の相違が誤解につながる理由を多くの事例を挙げて解説。日本の「ハイコンテクスト文化」とアメリカの「ローコンテクスト文化」を対比しながら、英語を世界共通の意思疎通の手段として用いる際に、異文化間コミュニケーションの落とし穴に落ちないようにするための注意を喚起して講義をしめくくる。その後、質疑応答の期間をもうけた。